

今年度作成した授業に関するアンケート（抜粋）を以下に掲載させていただきます。

令和5年度授業アンケート

3年 組 氏名 _____

3年		楽しい	分かりやすい	ためになる	理由・自由記述
共通科	現代文（3年国語）	楽しい	分かりやすい	ためになる	
	世界史（3年社会）	楽しい	分かりやすい	ためになる	
	総合（レポート）	楽しい	分かりやすい	ためになる	
	Aコースの人だけの授業	楽しい	分かりやすい	ためになる	
	和裁	楽しい	分かりやすい	ためになる	
	洋裁	楽しい	分かりやすい	ためになる	
	手芸	楽しい	分かりやすい	ためになる	
	栄養	楽しい	分かりやすい	ためになる	
	子どもの発達と保育	楽しい	分かりやすい	ためになる	

（委員の方からのご意見）（校務分掌等について）

- 学校の教育理念について先生方の共通理解が大切である。細谷高等専修学校の教育理念について、先生方は分かっているのでしょうか。それが出来ると校務分掌もよりスムーズに進められるようになると思います。
- 新しいことをしようとすると教員の負担は多くなる。
- 今回の課題で未実施のところをなくすことが大切です。

令和5年度第2回 地域振興分科会（茨城）の締めくくりとして、委員の方々から今後の高等専修学校（細谷高等専修学校）に求めている事、期待している事についてご意見をいただきました。

- 不登校が大きな課題になっている。細谷学園の温かな姿勢・対応はこれからも続けていただければと思う。
- 最近では通信制が多くなっているが、不登校等で友達と過ごすということを中学校までで経験できなかった生徒が細谷学園で経験できることは素晴らしい。
- 最近の子どもたちは点数だけで高校を選ばない。やりたいことにシフトしているので専門科目などは今まま通り続けてほしい。
- 心のケアが大切。安全・安心が1番。悩みやストレスをキャッチして心身のバランスを大切に指導してほしい。
- 家庭環境も複雑だと思うので早めの対応をしてほしい。
- 心の優しい生徒が多い。古き良き時代のものを残してほしい。
- ウエルビーン・・・やりがい、生きがいを持つこと。これからの教育だ！！

今回、地域振興分科会（茨城）として、3年間の継続事業に取り組みさせていただきました。茨城県は高等専修学校数が非常に少なく、高等専修学校という学校種について中学校の先生、中学生、保護者の方々、企業関係者に周知することに大変苦労している県であると認識しております。

また、本校（細谷高等専修学校）については、普通高校と比較すると、教育内容や生徒の特性等、様々な特徴のある特別な学校であると考えております。そのような背景の中、地元中学校の校長先生や関係する公的機関のご担当者等、各方面様々な方々に委員としてご協力いただき、3年間多くの貴重なご意見をいただきました。今事業に於いては3年間という限られた期間でもあり、本校のような小さな学校で取り組んでいける内容には限

りもありますが、そのような中で、今回いただいた様々なご助言を基に、出来ることをひとつひとつ積み重ねていき、時代のニーズ、地域のニーズを感じ取りながら、生徒、保護者、中学校の先生の期待に応え、少しでも多くの満足を与え続けられるよう、今後も研究を継続し続けていきたいと考えております。

3-4 神奈川県（担当校：岩谷学園高等専修学校）

文部科学省委託事業「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
 高等専修学校の学びの「セーフティーネット」
 令和5年度 地域連携委員会（神奈川県）実施報告

開催校 学校法人岩谷学園 岩谷学園高等専修学校

目 次

1. 委員会開催実績
2. 委員名簿
3. 議論のまとめ

委員会開催実績

回	期日・内容
第1回	令和元年11月8日(金)15:30~17:00 学校法人岩谷学園 ・「高等専修学校の機能高度化に関する調査研究」事業委員会の主旨説明 ・委員の自己紹介 ・社会的認知の向上 ・後期中等教育機関としての学びのセーフティーネットの保障 ・他学種との連携、接続
第2回	令和2年2月13日(木)15:30~17:00 学校法人岩谷学園 ・「高等専修学校」認知度調査アンケート調査結果発表 ・質疑応答、意見交換
第3回	令和2年11月26日(木)15:30~17:00 学校法人岩谷学園 ・新規委員の自己紹介 ・事業委員会の主旨説明 ・高等専修学校アンケート調査研究について ・質疑応答、意見交換
第4回	令和3年2月10日(水)書面開催 学校法人岩谷学園 ・「高等専修学校」認知度調査アンケート調査結果発表 ・質疑応答、意見交換
第5回	令和3年11月1日(月)15:00~17:00 学校法人岩谷学園 ・新規委員の自己紹介 ・神奈川県の高等専修学校の取り組み ・事業委員会の主旨説明

	<ul style="list-style-type: none"> ・高等専修学校アンケート調査研究について ・質疑応答、意見交換
第6回	<p>令和4年2月9日(木) 15:00~17:00 学校法人岩谷学園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高等専修学校」認知度調査アンケート調査結果発表 ・セーフティネットの取り組みについて事例に基づいた紹介 <p>①生蘭高等専修学校 ②ヨコスカ調理製菓専門学校 ③岩谷学園高等専修学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答、意見交換
第7回	<p>令和4年11月9日(水) 15:00~17:00 学校法人岩谷学園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規委員の自己紹介 ・神奈川県の高専学校の取り組み ・本事業委員会の概要説明 ・アンケート調査研究等について ・質疑応答、意見交換
第8回	<p>令和5年2月6日(水) 15:00~16:30 学校法人岩谷学園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート集計の報告 ・高等専修学校の取り組み 事例に基づいた紹介 <p>①野田鎌田学園横浜高等専修学校 ②横浜芸術高等専修学校 ③横浜デザイン学院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答、意見交換
第9回	<p>令和5年10月31日(火) 15:30~17:00 学校法人岩谷学園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規委員の自己紹介 ・神奈川県の高専学校の取り組み ・高等専修学校アンケート調査研究について ・質疑応答、意見交換
第10回	<p>令和6年1月30日(火) 15:30~17:00 学校法人岩谷学園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート集計の報告 ・高等専修学校の取り組み ・質疑応答、意見交換

委員会名簿

令和5年度10月1日現在

	委員名	所属
部会長	清水 裕	神奈川県専修学校各種学校協会 会長 学校法人清水学園 湘南平塚看護専門学校 理事長
副部会長	大田 裕多佳	神奈川県専修学校各種学校協会 副会長 学校法人早見芸術学園 鎌倉早見美容芸術専門学校 理事長
委員	宮坂 賀則	神奈川県公立中学校長会 会長 相模原市立大野南中学校 校長
委員	石塚 智久	神奈川県公立中学校長会 副会長 南足柄市立南足柄中学校 校長
委員	松田 哲治	神奈川県公立中学校長会 副会長 横浜市立日吉台西中学校 校長
委員	遠山 満	神奈川県公立中学校長会 進路委員長 横浜市立岡野中学校 校長
委員	岩谷 大介	神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員長 学校法人岩谷学園 岩谷学園高等専修学校 理事長
委員	柏木 照正	神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 副委員長 学校法人柏木学園 大和商業高等専修学校 理事長
委員	鈴木 聖奈	神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 副委員長 学校法人岩谷学園 専門学校神奈川総合大学校 校長
委員	佐藤 佳子	神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員 学校法人梅原学園 アイム湘南理容美容専門学校
委員	川口 賀久	神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員 学校法人鈴木学園 厚木総合専門学校
委員	渡邊 志の輔	神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員 学校法人岩谷学園 岩谷学園高等専修学校
委員	辻野 晃	神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員 学校法人生蘭学園 生蘭高等専修学校
委員	田口 尋夢	神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員 学校法人新堀学園 専門学校国際新堀芸術学院
委員	新留 光一郎	神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員 学校法人野田鎌田学園 野田鎌田学園横浜高等専修学校 校長
委員	窪田 正仁	神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員 学校法人柏木学園 大和商業高等専修学校
委員	森山 雅輝	神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員 学校法人敷島学園 ヨコス力調理製菓専門学校

委員	庄司 裕之	神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員 学校法人恭敬学園 横浜芸術高等専修学校 事務局次長
委員	宅間 智久	神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員 学校法人石川学園 横浜デザイン学院 入学相談課 課長
委員	志村 秀穂	学校法人岩谷学園 岩谷学園高等専修学校 校長
委員	折笠 初雄	学校法人岩谷学園 本部 本部長
委員	片岡 真一	学校法人岩谷学園 本部

議論のまとめ（令和5年度アンケート集計も含めて）

「全国の高等専修学校では、多様な個性を発揮する生徒を積極的に受け入れ、職業教育をベースにその個性に合わせた多様な教育活動を展開しています。すべては生徒の将来的な経済的自立を支援するためであり、各学校では献身的な生徒指導、人間教育を通して、多くの生徒に目標を獲得させ、高等教育機関へと送り出しています。

しかし、その教育環境には様々な問題点が存在し、決して十分な環境下で教育が展開されているわけではありません。また、社会的認知の欠如から、大学入試における格差や私立高校との格差の広がりもあり、現状把握と課題の明確化が重要となっています。さらに、地方と都市部では、その問題点には違いあり、全国すべての高等専修学校がそれぞれ何らかの問題点を抱えながら、教育を継続させているのが実態であります。

「以上の実態を改善へと進めるためには、今まで以上に高等専修学校の教育の現状と教育成果を社会にアピールし、学校情報や自己評価の公開による教育の質保証に努めていかなければなりません。そして、これからの時代に必要な学校種になるために、実態調査を進め、その結果の数字を全国の高等専修学校の声として、社会に投げかけ、更なる高等専修学校の推進を図る必要があります。

本事業では、高等専修学校の社会的認知の向上と格差問題等の解消を視野に入れ、これまでの取り組みで明らかになった高等専修学校の現状を踏まえ、継続した実態調査による課題把握と精査により、地域差、さらには全国共通の課題を明確にすることで、真の高等専修学校の学びのセーフティーネットの確立を目指したいと考えます。

<課題と今後>

本委員会では、高等専修学校という学校種の社会的認知をめぐる課題として、主に「中学校教員からの認知度の低さ」について議論し、中学校教員からの認知度の低さについて状況を詳細に把握するために、過去4年間にわたりアンケート調査を実施した。

分析結果の要点としては、大きく以下の2点が挙げられる。

第1に、中学校教員からの高等専修学校の認知度は、決して高いとはいえない。高等専修学校について「知っている」と回答した教員は81%と高かったものの、実際の高等専修学校名を知っていたのは、新設校や伝統校でばらつきがあったものの、28%から74%と高い数字ではなかった。これが普通科の高等学校であればほぼ100%に近い数字が想像されることを考慮すると実際の認知度はかなり低いと言わざるを得ない。また今年で22年目になる「仕事のまなび場 Jr」についてもわずか12%、中学生対象の学校説明会「高等専修学校展」も34%しか認知されておらず、周知方法も含め大きな改善が必要である。一部の通信制高校のようにテレビCM等で派手に宣伝できるにこしたことはないが、どの学校でも豊饒な広報予算がある訳ではない現状がある。

一方で、高等専修学校が支援の必要な生徒の受け皿になっていること、普通科の私学と同等の学費支援が受けられることは年々認知があがっている。今後は進路を選ぶ立場から「自分は普通科の高校に進学するより高等専修学校が自分にはあっている」など、中学校の現場でフラットな立場で広く利用できるツールの作成など必要で

はないかと考える。

第2に、高等専修学校の情報をも知りたいと考えている教員が大多数いる。回答者全体の71%が、機会があれば高等専修学校の情報をもっと知りたいと回答している。とは言え、令和4年度アンケートでは高等専修学校PR用DVDがわずか3%しか視聴されていない。中学校教員の多忙・長時間労働の問題が叫ばれる現状では、伝達手段については工夫する必要があるが、高等専修学校の認知度を高めるチャンスは十分に残されていると考えられるので、タブレットを活用したツールなど検討していきたい。

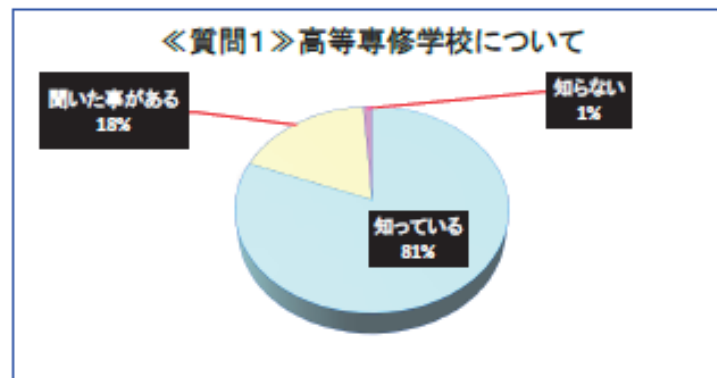
今後についてはこれらを実施すること以外にも、まずは「高等専修学校」を認知してもらう取り組みとして、保護者や教員対象の進路説明会を行っていくことや、継続的に中学校長会とも連携を進めた仕組み作りもさらに大切である。いずれにおいても「オール神奈川」の体制で「高等専修学校における学びのセーフティネット」としての役割を周知、真摯に取り組んでまいりたいと思います。

【参考資料】

「高等専修学校」の認知度調査アンケート 集計結果

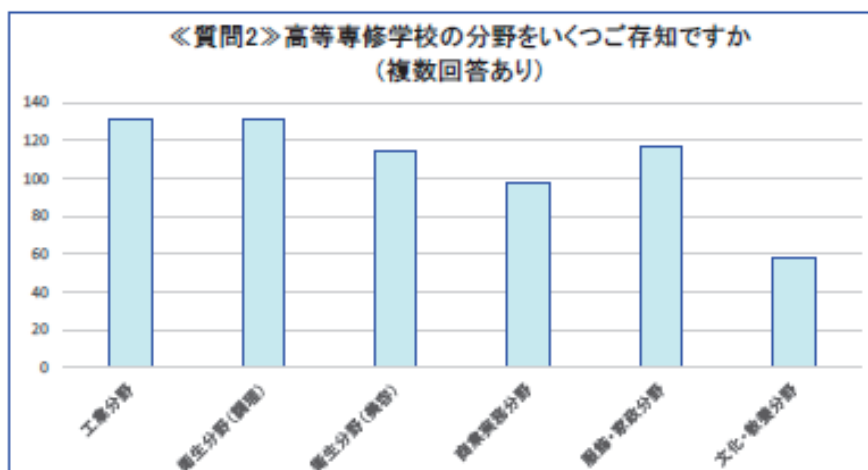
〈質問1〉 高等専修学校について

知っている	153
聞いた事がある	34
知らない	2
合計	189



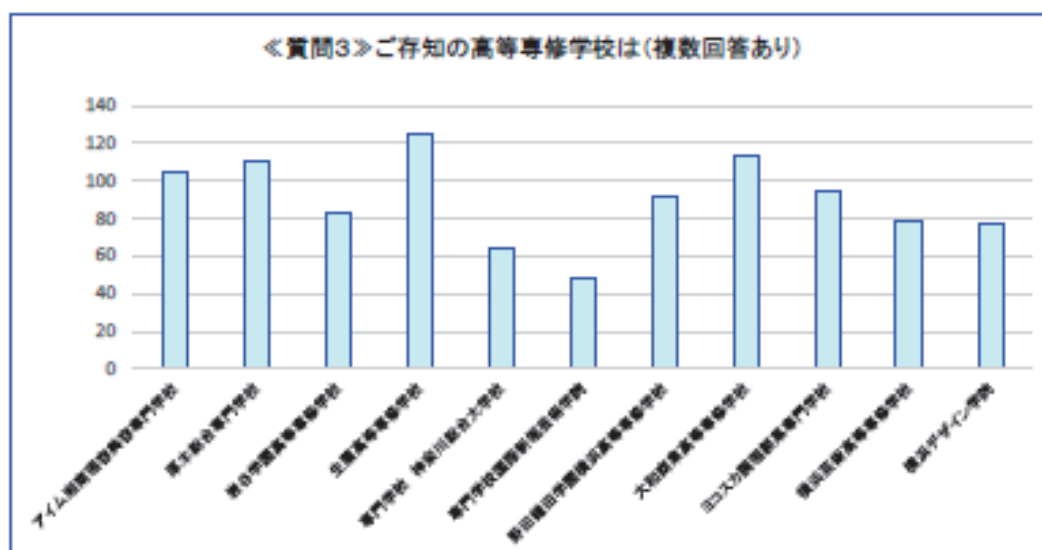
〈質問2〉 高等専修学校の分野をいくつご存知ですか（複数回答あり） （回答者数：169名）

工業分野	131	回答者数による比率	77.5%
衛生分野（調理）	131		77.5%
衛生分野（美容）	115		68.0%
商業実務分野	98		58.0%
服飾・家政分野	117		69.2%
文化・教養分野	58		34.3%



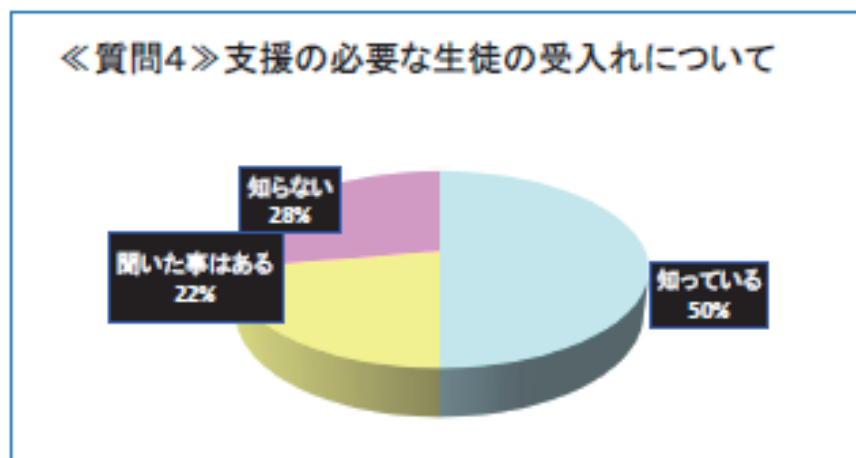
《質問3》 ご存知の高等専修学校（複数回答あり：回答者数169名）

アイム湘南美容専門学校	104	回答者数による比率	61.5%
厚木総合専門学校	111		65.7%
岩谷学園高等専修学校	83		49.1%
生蘭高等専修学校	125		74.0%
専門学校 神奈川総合大学校	64		37.9%
専門学校国際新進芸術学院	48		28.4%
野田園田学園横浜高等専修学校	91		53.8%
大和商業高等専修学校	113		66.9%
ヨコスカ調理製菓専門学校	95		56.2%
横浜芸術高等専修学校	78		46.2%
横浜デザイン学院	77		45.6%



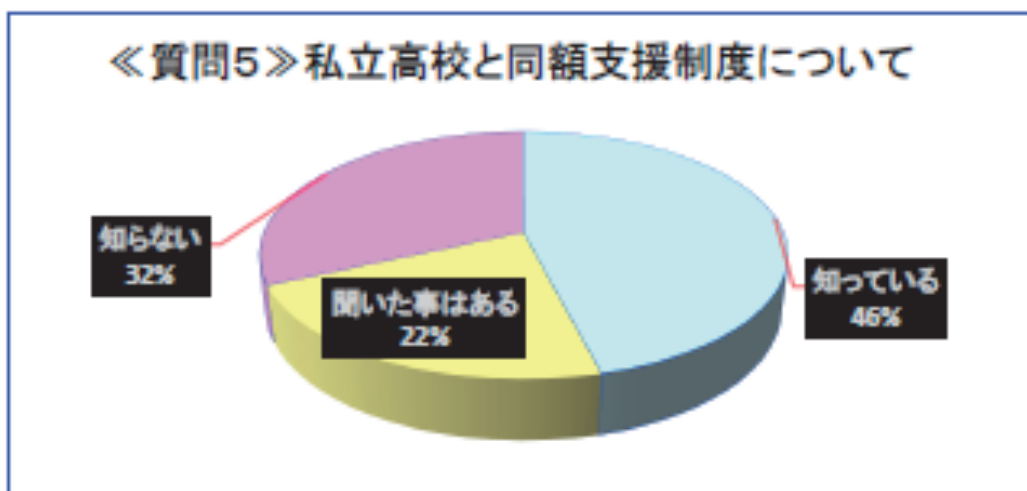
《質問4》 支援の必要な生徒の受入れについて

知っている	94
聞いた事はある	42
知らない	52
合計	188



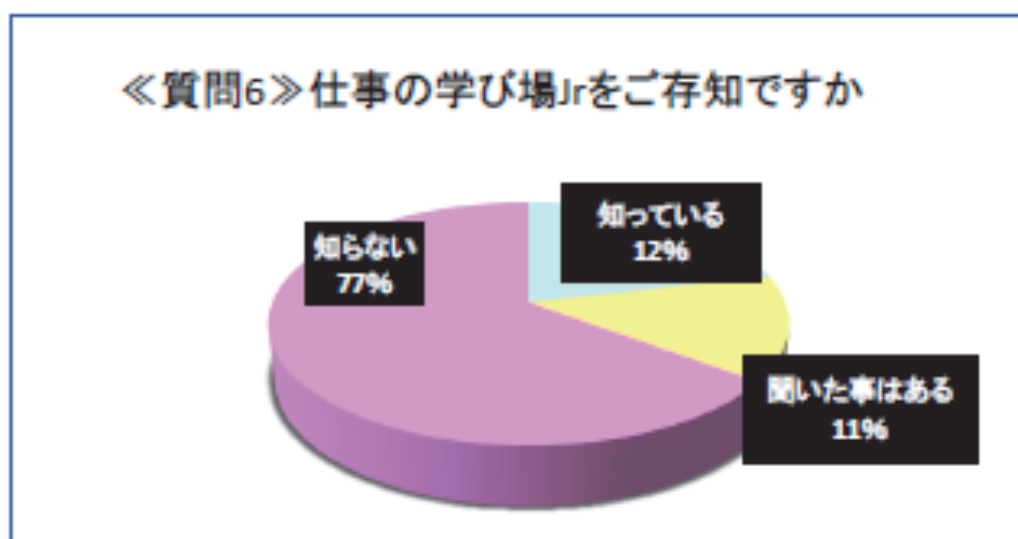
《質問5》 私立高校と同額の支援制度があることについて

知っている	87
聞いた事はある	42
知らない	60
合計	189



《質問6》 仕事のまなび場Jrをご存知ですか

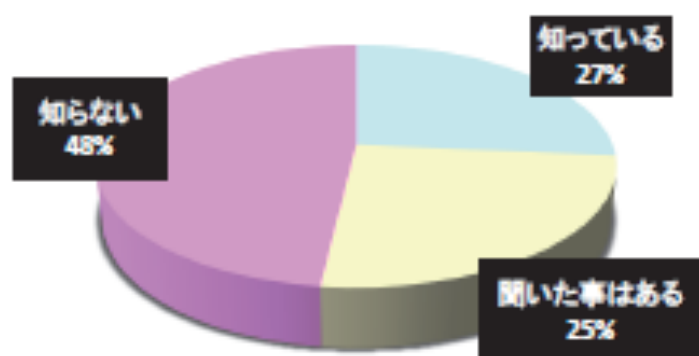
知っている	40
聞いた事はある	26
知らない	121
合計	187



〈質問7〉 高等専修学校展についてご存知ですか

知っている	50
聞いた事はある	48
知らない	91
合計	189

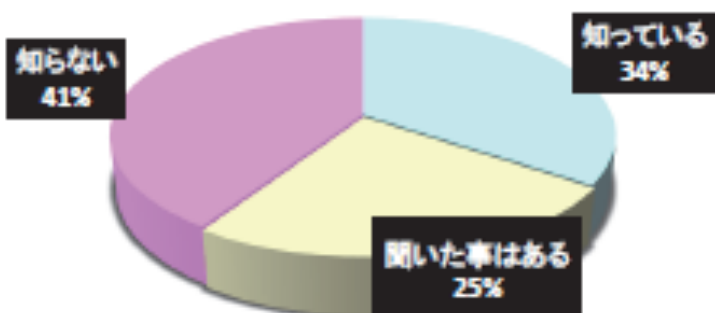
〈質問7〉 高等専修学校展についてご存知ですか



〈質問8〉 高等専修学校進学説明会をご存知ですか

知っている	65
聞いた事はある	47
知らない	77
合計	189

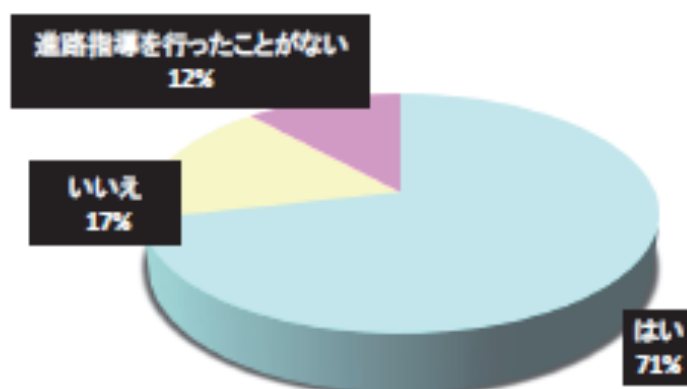
〈質問8〉 高等専修学校進学説明会をご存知ですか



〈質問9〉 生徒・保護者に紹介したことはあるか

はい	135
いいえ	32
進路指導を行ったことがない	22
合計	189

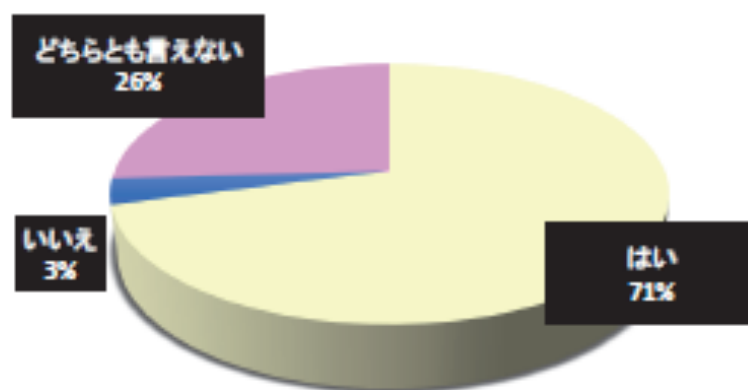
〈質問9〉 生徒・保護者に紹介したことはあるか



〈質問10〉 高等専修学校の情報を知りたいか

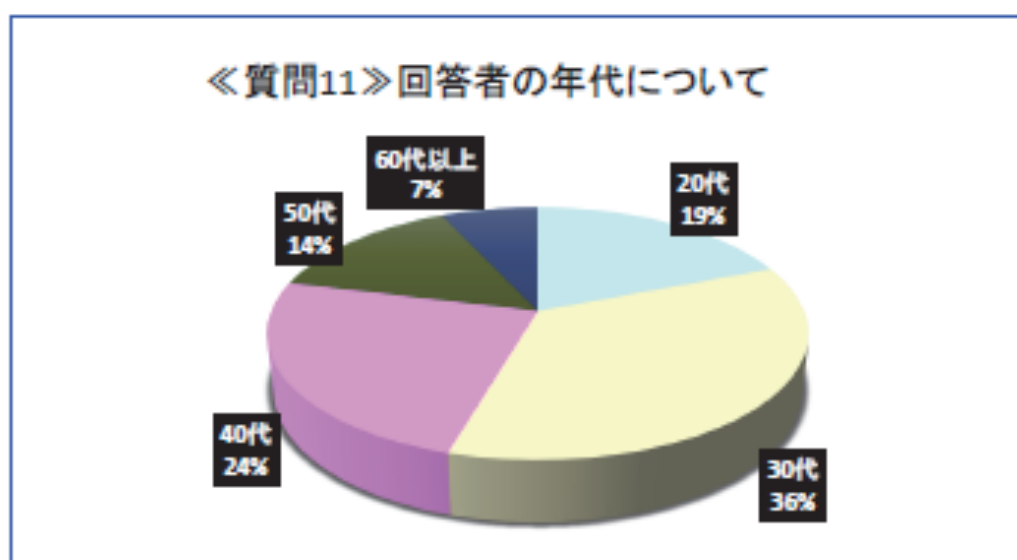
はい	134
いいえ	6
どちらとも言えない	49
合計	189

〈質問10〉 高等専修学校の情報を知りたいか



《質問11》 回答者の年代について

20代	36
30代	67
40代	46
50代	27
60代以上	13
合計	189



2023年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」第1回事業委員会

一般社団法人 神奈川県専修学校各種学校協会
高等専修学校委員会事業報告

令和4年度

・『2023年高等専修学校進学ガイド』(全面カラー版11,000部)を神奈川県監修の下に刊行し、県内中学校等に配付した。

- ・神奈川県高等専修学校展
日時：7月18日(月・祝)11:00～ 場所：クイーンズサークル 参加者：351名
- ・中学校教員対象 高等専修学校進学説明会
横浜会場① 日時：8月18日(木)14:00～ 場所：かながわ県民センター 参加者：17名
横浜会場② 日時：8月19日(金)14:00～ 場所：かながわ県民センター 参加者：20名
厚木会場 日時：8月22日(月)14:00～ 場所：厚木総合専門学校 参加者：10名
- ・神奈川県公立中学校長会役員との情報交換会
日時：6月3日(金)11:00～ 場所：神奈川県教育会館 参加者：11名
- ・神奈川県公立中学校長会進路委員長を招いての勉強会
日時：7月8日(金)16:00～ 場所：協会事務所 参加者：13名
- ・高等専修学校を紹介するリーフレット77,000部を作成し、県内の公立中学校3年生全員に配付した。
- ・中学生からの職業意識の伸張を図るとともに高等専修学校への理解を深めてもらうため、県内32中学校を対象に中学生版教育連携「仕事のまなび場jr」を実施した。
- ・県下7会場(横浜・川崎・相模原・横須賀・平塚・厚木・小田原)にて開催された神奈川県教育委員会

主催の「不登校生・高校中退者のための進路情報説明会」に参加し、高等専修学校の周知に努めた。

令和3年度

- ・『2022年高等専修学校進学ガイド』(全面カラー版11,000部)を神奈川県監修の下6月に刊行し配付した。
- ・高等専修学校展 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とした。
- ・高等専修学校進学説明会 県内3会場(横浜・藤沢・厚木)で開催した
- ・神奈川県公立中学校長会役員との情報交換会を開催した。
日時：11月8日(月)14:00～ 場所：神奈川県教育会館 参加者：11名
- ・神奈川県公立中学校長会進路委員長を招いての勉強会、神奈川県公立中学校長会進路委員会との合同勉強会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、いずれも中止とした。
- ・高等専修学校を紹介するリーフレット77,000部を作成し、県内の公立中学校3年生全員に配付した。
- ・中学生版教育連携「仕事のまなび場jr」を神奈川県内25中学校を対象に実施するなど、中学生からの職業意識の伸張を図るとともに高等専修学校への理解を深める活動を推進した。
- ・県下7会場(横浜・川崎・相模原・横須賀・藤沢・厚木・小田原)にて開催された神奈川県教育委員会主催の「不登校生・高校中退者のための進路情報説明会」に参加し、高等専修学校の周知に努めた。

令和2年度

- ・『2021年高等専修学校進学ガイド』(全面カラー版11,000部)を神奈川県監修の下6月に刊行し、配付した。
- ・「高等専修学校展」を横浜市内で1回、「高等専修学校進学説明会」を県内3会場で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、いずれも中止とした。
- ・神奈川県公立中学校長会役員との情報交換会を開催した。
日時：10月7日(水)15:00～ 場所：神奈川県教育会館 参加者：10名
- ・神奈川県公立中学校長会進路委員長を招いての勉強会、神奈川県公立中学校長会進路委員会との合同勉強会をそれぞれ1回ずつの開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、いずれも中止とした。
- ・高等専修学校を紹介するリーフレット77,000部を作成し、県内の中学校に配付した。
- ・中学生版教育連携「仕事のまなび場jr」を神奈川県内11中学校を対象に実施するなど、中学生からの職業意識の伸張を図るとともに高等専修学校への理解を深める活動を推進した。
- ・県下7会場(横浜・川崎・相模原・横須賀・平塚・厚木・小田原)にて開催された神奈川県教育委員会主催の「不登校生・高校中退者のための進路情報説明会」に参加し、高等専修学校の周知に努めた。

3-5 愛知県（担当校：安城生活福祉高等専修学校）

文部科学省委託事業「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

高等専修学校の学びの「セーフティーネット」

令和5年度 地域連携委員会（愛知県）実施報告

開催校 学校法人さくら学園 安城生活福祉高等専修学校

1. 分科会開催実績

回	期日・内容
第1回	(日時) 令和5年12月14日(木) 15:00~16:30 (場所) 学校法人さくら学園 安城生活福祉高等専修学校 会議室 (内容) 1. 開会 2. 理事長(分科会会長)挨拶 3. 出席者自己紹介 4. 内容説明・意見交換 1) 事業の概要 2) 意見交換(高等専修学校の実態) 3) 意見交換(本校の教育内容、地域・企業連携) 4) 意見交換(教育NPO SevenSwell様との連携事例) 5. 閉会



2. 分科会委員名簿

	氏名	所属・役職
分科会会長	岩瀬 せつ子	学校法人さくら学園 理事長 安城生活福祉高等専修学校 校長
委員	伊澤 勉	愛知県岡崎市立六ツ美中学校 校長 令和5年度岡崎市小中学校長会 役員
委員	葉山 靖彦	愛知県刈谷市立刈谷南中学校 校長
委員	都築 智	愛知県安城市立安城南中学校 校長 令和5年度安城市小中学校長会 役員
委員	藤本 径也	教育 NPO SevenSwell 理事長
委員	落合 孝恵	安城生活福祉高等専修学校 進路指導部長
委員	河口 文吾	安城生活福祉高等専修学校 パティシエ専攻主任
委員（事務局）	宮治 友也	学校法人さくら学園 本部 新規事業部長

以上8名

3. 議論のまとめ

3-1. 事業の概要

全国の高等専修学校では、不登校、家庭環境に問題のある生徒、発達障害の生徒、外国籍の生徒など多様な生徒を受け入れ、普通高校とは異なる特色ある職業教育や生徒指導を行い、社会や高等教育機関へと人材を送り出している。また、それぞれの学校において地域や企業と連携を深め、地域で活躍できる人材育成に努めている。

当事業においては、高等専修学校に在籍する生徒の実態、実習や地域・企業連携事業などの特色ある教育プログラムについてまとめ、情報発信していくことで、各地域における高等専修学校の役割を確認するとともに、認知度の向上を図ることを目的としている。その一環として、地域の高等専修学校の教育上の課題点を把握することを目的として、関係機関との意見交換を行った。

3-2. 高等専修学校の実態

各地域の高等専修学校では、高校生の段階から専門科目を中心に学習を行っている。職業教育、実践的な学習（実習）や地域・企業との連携事業をたくさん行い、生徒が興味をもって継続して学習できるような仕組みを作っている。それによって、地域で活躍できるような専門人材の育成に取り組んでいる。

このような高等専修学校の活動に対して、各地域において認知度が高まってきている。詳細は4章に記載するが、安城生活福祉高等専修学校のある愛知県三河地域の中学校教員を対象にした「高等専修学校の認知度に関するアンケート」の結果によると、「高等専修学校という学校種を知っているか」という問いに関して、「大変よく

知っている」もしくは「知っている」と回答した教員の割合が、教員経験 11 年以上では 95%、教員経験が 10 年以下では 79%となった。また、中学校卒業後の進学先の 1 つとして、生徒や保護者に高等専修学校を紹介したことがあるかという問いに対して、「多くある」もしくは「少しある」と回答した教員の割合は、教員経験 11 年以上では 95%、教員経験が 10 年以下では 52%となった。特に教員経験の長い先生においては、高等専修学校が広く認知されていることが分かる。

全国高等専修学校協会が毎年実施している高等専修学校の実態アンケートによると、高等専修学校においては下記のような生徒が多く在籍しているという特徴がある。

① 住民税非課税世帯の家庭の生徒の割合

：17.0%（当分科会の担当校である安城生活福高等専修学校においては 14.0%）

※ 住民税非課税世帯の年収は概ね 200 万円以下（会社員、専業主婦、子ども 1 人の場合）

② 一人親、両親のいない家庭

：28.2%（安城生活福高等専修学校においては 23.1%）

※ 日本全体では 6.8%程度 : 厚生労働省 R4 年度 国民生活基本調査より

③ 中学校時代に不登校の生徒

：23.6%（安城生活福高等専修学校においては 9.2%）

※ 中学校全体では 6%程度 : 文部科学省 R4 年度 「児童生徒の問題行動・不登校生徒指導上の諸課題」より

④ 発達障害のある生徒

：13.3%（安城生活福高等専修学校においては 6.3%）

※ 全国の高校全体では 2.2% : 文部科学省「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果（令和 4 年 12 月）」より

⑤ 外国籍の生徒

：2.3%（安城生活福高等専修学校においては 9.5%）

※ 全国の高校全体では 0.6% : R4 年度 学校基本調査結果より算出

愛知県三河地域の中学校教員を対象にした「高等専修学校の認知度に関するアンケート」において、「高等専修学校は中学校時代に不登校の生徒、発達障がいのある生徒、一人親家庭の生徒、住民税非課税世帯の生徒などの割合が高く、多種多様な生徒が通学していることを知っているか」という問いを設け、回答を得た。その結果、「大変よく知っている」もしくは「知っている」と回答した教員の割合は、教員経験 11 年以上では 90%、教員経験が 10 年以下では 55%となった。特に教員経験 10 年目以下の先生においては、高等専修学校に通う生徒の実態に関する認知が十分に広がっているとは言えない現状がある。

このような多種多様な生徒に対して、全国の高等専修学校では下記のように対応している。

① 少人数のクラス編成、② 生徒同士が学び合える仕組み、③ 個別指導の充実

令和4年度の全国高等専修学校のアンケート結果（Fig.3-1）によると、このような各高等専修学校における手厚い対応により、「不登校が改善した生徒」、「改善傾向にある生徒」の割合は約85%となった。全国の高等専修学校が不登校や家庭環境に問題のある生徒、発達障害の生徒など多様な生徒を受け入れて、それらの生徒にきめ細かく対応して、不登校の改善に貢献していることが分かる。

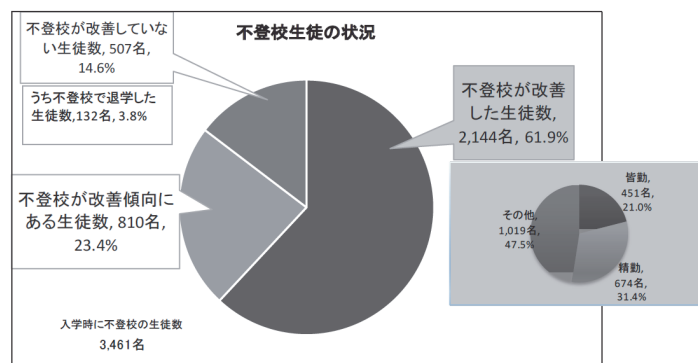


Fig.3-1 不登校生徒の改善状況（令和4年度全国高等専修学校協会アンケート結果より）

また、多種多様な生徒が興味を持って継続して学校に通うことができるように教育カリキュラムや行事、特別事業などでも各地の高等専修学校で工夫がされている。教育内容については、3-3で述べるものとする。

■ 分科会委員から出された意見

（高等専修学校の認知度、高等専修学校に入学する生徒の中学校での状況、中学校と高等専修学校の接続・連携、多様な生徒への高等専修学校での対応について）

- 刈谷市では不登校生徒を対象にした進路説明会を毎年実施している。いくつかの高等専修学校に来校し、説明してもらった。通常の中学校で実施している進路説明会とは異なり、不登校の生徒にどのように対応するかなどの話をし、不登校の生徒や保護者が書いた質問に答えていただいていたありがたかった。不登校の生徒の親からも好評であった。大変ありがたい機会であったので今後も継続してほしい。
- 外国籍の割合が高いことは、愛知県や三河地域の大きな特徴であり、対応すべき課題である近隣の小学校においては外国籍の生徒が100名を超えている学校もある。地域の小学校、中学校、また高校や高等専修学校が連携してこの課題に向き合っていく必要があるのではないかと考える。
 - 安城生活福祉高等専修学校においては、放課後に外国籍の生徒を対象に日本語の授業を行っている。それでも特に就職活動の際など、苦労している現状がある。小中学校と連携して早い段階からサポートができればよいと思う。
 - 一般教科が少なく、専門教科が多い高等専修学校のカリキュラムは、日本語の苦手な外国籍の生徒にはマッチしているのではないかと考える。
- 知識、技術を身に付けて社会に送り出すことにとっても価値があると考えている。最近中学校では通信制高校へ入学を希望する生徒が増えている。人に会いたくないから通信制に行きたいという生徒も多い。そのような生徒に高等専修学校の見学をしてほしい。中学校の時に不登校の生徒でも、高等専修学校に進学してから立派に人前